

2016 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	国際比較政治研究所
評価基準 1	理念・目的
点検・評価項目 (1)	1-1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
評価の視点	理念・目的の明確化
	設置の主旨や歴史からみた理念・目的の適切性
	個性化・独自性、国際化への対応
点検・評価項目 (2)	1-2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	構成員に対する周知方法と有効性
	社会への公表方法
点検・評価項目 (3)	1-3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 【点検・評価項目ごとの現状説明】

1-1	・本研究所は、設立にあたって「国際比較政治研究所規程」（平成 2 年 10 月 31 日）を制定し、理念・目的については第 2 条において「研究所は、わが国を含む先進国の政治および発展途上国の比較研究・調査を行い、あわせてトランスナショナルな傾向をも研究・調査し、広く社会科学の発達に寄与することを目的とする」と定めた。また、同第 3 条において「1. 研究・調査の実施及びその受託ならびにその成果の発表及び出版、2. 調査研究、資料の収集・整備及び保管、3. 国内外の研究機関及び研究者との交流ならびに共同研究、4. 研究会、講演会等の実施、5. その他前条の目的を達成するために必要な事業」を事業内容として定めている。 ・年度内に定期的に行われている運営委員会が規定の適切性の検証を行うべき機関であるが、検証は行われていない。 ・平成 27 年度には、大学院との共催での講演会が開催された。また、研究会には数回にわたり学部生の参加もみられた。さらに、毎年シンポジウム（隔年で国際シンポジウムを開催している）は、学部生向けに開講されている授業の時間枠で行われている。こうした活動は、研究所の設置理念に対して適切であるが、学部生・大学院生の教育に対して研究所が果たすべき役割が事業内容に明記されていない。
1-2	・上記の本研究所の理念・目的および事業内容を定めた大東文化大学国際比較政治研究所規程は学園規則集に掲載され、学内関係者の閲覧に供されている。また、理念・目的および事業内容は簡略化した形で国際比較政治研究所ホームページにおいて公開し、大学構成員および社会に向けて公表・周知を図っている。 ・平成 27 年度は、更新がされていなかったホームページに関して、入試広報課と掛け合い、本研究所のホームページのリニューアルと適時の更新方法について話し合った。大学全体のホームページが更新された一方、研究所のホームページの更新はそれ以降の課題だと入試広報課の回答を得たので、研究所としては、旧ホームページを維持する結論を出した。掲載するデータのリニューアルの準備も進めた。しかし、平成 28 年 5 月 1 日現在、リニューアルされた大学ホームページには本研究所のホームページがリンクされていない。この現状に対して、研究所に連絡はない。 ・理念・目的および事業内容に沿って、毎年、年報と IICPS ニュースレター（IICPS は Institute of International Comparative Political Studies の略）を発行し、それらを関係者・関係機関に送付するとともに、送付時にアンケートを実施することで、研究所の活動について公表・周知を図っている。ただし、2016 年度は予算が削減され、IICPS ニュースレターは 25 号で廃刊となったので、年報の構成を変更し、より積極的な公表・周知方法の検討が必要である。 ・前述の周知を図る取り組みについては、その有効性を測る有意意味な方途を見いだし得ていない。
1-3	・本研究所の理念・目的の適切性については定期的な検証を行っていないが、2014 年 1 月 15 日開催の運営委員会において定期的な検証の必要性を確認し、2015 年 3 月 2 日開催の運営委員会において 2016 年度からの検証の着手を確認した。同月に法学部教授会で承認された 2016 年度の活動方針でも明記された。

【効果が上がっている事項】

1-1	
1-2	
1-3	

【改善すべき事項】

1-1	・学部生・大学院生教育に対して研究所が果たすべき役割について、理念・目的および事業内容で明記されていない。
-----	---

1-2	・関係者・関係機関に本研究所の理念・目的について一層の周知を図る。 ・国際比較政治研究所のホームページが大学のホームページにリンクされておらず、適時の更新も不可能であるから、入試広報課に改善を願う。 ・必要であれば、ホームページのリニューアルのための予算措置を講じ、25年にわたる活動記録・出版物・研究会の軌跡などを可及的速やかに掲載する。
1-3	

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

B1-16	大東文化大学ホームページ（自己点検・評価活動） http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/index.html
	〔追加資料〕

Ⅲ【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの		評価				
				2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～2018)	1-3 ・運営委員会において理念・目的の検証を定期的に行う。	・運営委員会における理念・目的の検証作業が制度化されている。	→			A		
	1-1 ・理念・目的および事業内容を定めた「国際比較政治研究所規程」を改訂し、研究所の活動を学生教育に還元することを明記する。	・「国際比較政治研究所規程」に、学生教育に対して研究所が果たすべき役割が明記されている。	→			C		
	1-2 ・理念・目的が検証され、広く社会に周知される。	・ホームページ、年報に理念・目的が掲載されている。				C		
14年度目標	1-2 ・年報および IICPS ニュースレターに研究所の理念・目的および事業内容を明記する。	・年報および IICPS ニュースレターに研究所の理念・目的および事業内容が記載されている。	→	S				
	1-2 ・研究所 HP を適時、更新する。	・研究所 HP が適時に更新されている。	→	C				
	1-3 ・理念・目的の定期的な検証に着手する。	・運営委員会において理念・目的の検証を行っている。	→	B				
15年度目標	1-2 ・共同研究プロジェクトを編成するにあたって、研究所の理念・目的との整合性を審査基準の一つとする。	・共同研究プロジェクトを編成するにあたって、研究所の理念・目的との整合性が審査基準の一つとされている。	→		A			
	1-2 ・研究所 HP を適時、更新する	・研究所 HP が適時に更新されている。	→		C			
	1-3 ・上半期と年度末の運営委員会において理念・目的の検証を行う。	・上半期と年度末の運営委員会において理念・目的の検証が行われている。	→		C			
16年度目標	1-1 ・研究所の理念に、学部生・院生の教育に関して果たすべき役割を盛り込む議論に着手する。	・研究所の理念に、学部生・院生の教育に関して果たすべき役割を盛り込む議論が開始されている。				A		
	1-2 ・研究所 HP を適時に更新する環境を整える。	・研究所 HP が大学HP にリンクされ、閲覧が可能となっている。また、適時に更新される環境が整っている。				C		
	1-2 ・年報上で研究所の理念・目的を周知する方策を考える。	・年報上で研究所の理念・目的を周知する方策が決定される。				S		
	1-3 ・上半期と年度末の運営委員会において理念・目的の検証を行う。	・上半期と年度末の運営委員会において理念・目的の検証が行われている。				A		